

平成25年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成25年4月22日
栃木県農業環境指導センター

チャノキイロアザミウマ(新規系統)の発生について

- 1 害虫名：チャノキイロアザミウマ *Scirtothrips dorsalis* Hood 新規系統
- 2 発生作物名：トルコギキョウ
- 3 発生経過
平成25年4月に足利市のトルコギキョウほ場で花首のコルク化、新葉の奇形、草丈の伸長抑制などの症状がみられた。被害株から採集したアザミウマ類を独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構構果樹研究所の土田 聡 博士に同定依頼した結果、本県未発生チャノキイロアザミウマ(新規系統)と判明した。本種の在来系統は主に木本性植物を寄主とするが、新規系統は在来系統が寄生しない各種熱帯果樹類、木本性マメ科植物、草本作物にも寄生し加害する。これまでに西温暖地を中心に、トルコギキョウ(熊本)、ピーマン(沖縄県、高知県)、シシトウ(高知県)、マンゴー(鹿児島県、宮崎県、愛媛県、千葉県、福岡県)、ハウスマミカン(鹿児島県)での報告がある。

- 4 被害の特徴
食害により花首のコルク化、蕾のわい化、新葉の奇形、草丈の伸長抑制が認められる。
- 5 形態
成虫は黄色で、閉じた前翅により背部中央が黒く筋状に見える。体長は雌が約0.9mm、雄が約0.8mm。在来系統との識別は外観では不可能であり、遺伝子診断を必要とする。

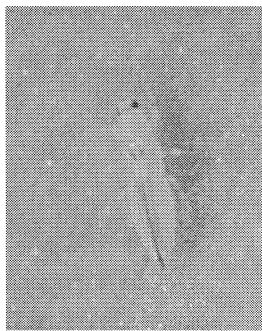


図1 チャノキイロアザミウマ成虫

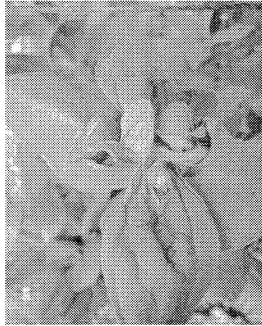


図2 食害によるトルコギキョウ新芽の奇形

- 6 防除対策
(1)施設開口部に防虫ネットを伸展して侵入を防止する。また、黄色粘着テープを設置し、捕殺する。
(2)薬剤は、トルコギキョウまたは花き類・観葉植物のアザミウマ類に登録のあるものを、農薬容器のラベル表示に従って使用する。
(3)成虫が新葉内に多く生息するため、薬剤は新葉内にもかかるように丁寧に散布する。

詳しくは、農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問合せ下さい。
Tel (028) 626-3086 Fax (028) 626-3012

平成25年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成25年7月1日
栃木県農業環境指導センター

モトジロアザミウマの発生について

- 1 害虫名：モトジロアザミウマ *Echinothrips americanus* Mongan
- 2 発生作物名：ハイビスカス
- 3 発生経過
平成25年4月に宇都宮市の花き栽培施設(ハイビスカス)で発生したアザミウマ類について、農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、本県未発生モトジロアザミウマと判明した。本種は、インゲン(東京都；平成11年)、オオバ(愛知県；平成14年)、ミョウガ(高知県；平成15年)、ハイビスカス(鹿児島県；平成16年)、ディーツェンバキアおよびシンゴニウム(香川県；平成25年)でそれぞれ報告されている。

- 4 被害の特徴
ハイビスカスでは、主として中位葉に成虫と幼虫が混在した集団で寄生することで、葉にカスリ状の被害を生じ、激発時には落葉する。ほかに、バラ、ポインセチア、キュウリ、メロン、ナス、トマト、ピーマンなどにも寄生する。

- 5 生態及び形態
卵から成虫までの成育期間は、20℃で33.9日、30℃で11.4日とされ、高温であれば短期間に世代を繰り返す。雌成虫の体長は約1.6mm、雄成虫は約1.3mmである。前翅基部は白いラインが入ったように見える。



図1 モトジロアザミウマ成虫

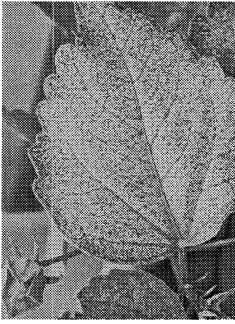


図2 加害による葉のカスリ症状

- 6 防除対策
(1)施設開口部に防虫ネットを伸展して侵入を防止する。また、苗などによる持ち込みにも注意する。
(2)花き類・観葉植物では、アザミウマ類に登録のあるディーツェンバキアなど散布する。
- 7 引用文献
伊藤啓司・大野 徹 (2003) 植物防疫 57: 223-225.

詳しくは、農業環境指導センターまでお問合せ下さい。
Tel (028-626-3086) Fax (028-626-3012) HP (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)